

一等水準点検測成果集録

第 15 卷

(昭和45年度観測)

昭和46年7月

建設省国土地理院

記

本集録は、昭和45年度に、国土地理院が行なった一等水準点検測の結果を集録、
図示したものである。

なお、新潟地方地盤変動調査のため行なった一等水準点検測の結果は、新潟地方地
盤変動調査測量に関する報告第23巻(昭和46年4月)をもって発表済みであるの
で、本集録では省略した。

昭和46年7月

建設省国土地理院

一等水準点検測成果集録

第 1 5 卷

(昭和45年度観測)

目 次

1. 観測器械および観測法	3
(1) 観 測 器 械	
(2) 観 測 法	
2. 検測区域および期間	4
3. 変動図の説明	7
付図 一等水準路線図	
一等水準点変動図	

1 観測器械および観測法

(1) 観測器械

A 水準儀

観測年度	水準儀名称	望遠鏡倍率	水準器感度
大正14年(1925)以後	Carl Zeiss製Ⅲ型精密水準儀	36倍	10"~12"/2mm(合致式)
昭和28年(1953)以後	Carl Zeiss製Ⅲ型精密水準儀	36倍	"
	Wild製N3型精密水準儀	42倍	10"/2mm(合致式)
昭和31年(1956)以後	Wild製N3型精密水準儀	42倍	"
昭和43年(1968)以後	Wild製N3型精密水準儀	42倍	"
	Zeiss製Ni2型精密水準儀	32倍	円型水準器 8'

B 水準標尺

観測年度	水準標尺名称	長さ	目盛部の状況	
			材質	目盛法
大正14年以後 (1925)	Carl Zeiss製精密水準標尺	3m	インパール(巾2.6cm長さ3mのものを20Kgの張力で緊張してある)	インパール帯の中 央線の両側に2.5mmの差をもって、 5mmごとに目盛る
昭和28年以後 (1953)	Carl Zeiss製精密水準標尺	3m	"	"
	Wild製精密水準標尺	3m	"	同上5mmの差をも つて10mmごとに 目盛る
昭和31年以後 (1956)	Wild製精密水準標尺	3m	"	"

(2) 観測法

観測に当っては、地上によく踏みこんだ鉄製標尺台に、標尺を尺付属の丸型レベルによって

鉛直に立て、水準儀は両標尺間の中央に整置し、後視—前視、更に前視—後視の順序に観測を行なう。

整準ねじによってまず、丸型レベルの気泡を中央に導き、第一回視準は、望遠鏡の視野における標尺の左側分画線の中央に、第二回は右側分画線の中央に、それぞれ測微装置によって「くさび」型十字糸を導き、プリズム内の水準器気泡の映像が合致したとき、分画線を正しく挟んで、マイクロメーターにより、10分の1mm(昭和35年以前は100分の1mm)まで読みとった。

水準儀と標尺の距離は、平地では通常50m~60m(Carl Zeiss製Ⅲ型では40m)以内とし、各水準点間(2Km、地点標に併設された水準点間は1Km)は往復測量を行なって、その往復差は、 $2.5\text{mm}\sqrt{S}$ (昭和35年以前は $1.5\text{mm}\sqrt{2S}$ 、昭和36年より昭和39年までは $2.0\text{mm}\sqrt{2S}$)以内である。

なお「インパール」製標尺は定期的に「インパール」製5m標準尺(共に副原器と直接比較したもの)と比較検定して、観測値に所要の補正を行なった。

2 検測区域および期間

変動区番号	検測区域	不動とした水準点番号	キロ数	検測期間
45-1	自北海道斜里郡斜里町 B.M.J 45 至 " 釧路市 B.M.7606	斜里郡斜里町 J. 45	211	自昭和45年5月 至 " 10月
45-2	自北海道富良野市 B.M.J.8162 至 " 沙流郡門別町 B.M.J. 26	富良野市 J.8162	112	自昭和45年6月 至 " 8月
45-3	自秋田県平鹿郡山内村 B.M. 5556 至岩手県和賀郡湯田町 B.M. 5540	平鹿郡山内村 5556	30	昭和45年11月
45-4	自新潟県直江津市 B.M. 3724 至 " 柏崎市 柏崎験潮場	柏崎市 柏崎験潮場	15	自昭和45年8月 至 " 9月
45-5	自東京都千代田区 B.M. 甲 経神奈川県横浜市 B.M.001-043 経神奈川県横浜市 B.M.基 25 至 " 三浦市 油壺験潮場	千代田区 甲	56 140	自昭和45年10月 至 " 11月

45-6	自千葉県千葉市 至千葉県 "	B.M.J.3837 千葉県水準原点	千葉市 J.3837	15	昭和46年 2月
"	自千葉県市原市 至 " 勝浦市	B.M. 3838 B.M. 3904	市原市 3838	61	自昭和46年 1月 至 " 2月
"	自千葉県君津郡天羽町 至 " 館山市	B.M.3863 B.M. 3880	天羽町 3863	43	昭和46年 2月
"	自千葉県館山市 至 " 安房郡和田町	B.M. 3880 B.M. 3887	館山市 3880	38	自昭和46年 1月 至 " 2月
"	自東京都中央区 至千葉県勝浦市	B.M.J. 7 勝浦験潮場	中央区 J. 7	197	自昭和46年 1月 至 " 3月
45-7	自静岡県沼津市 至神奈川県藤沢市	B.M. 60.1 B.M.J. 36.1	藤沢市 J. 36.1	94	昭和45年12月
45-8	自静岡県磐田郡豊田村 至 " 藤枝市	B.M. 145-1 B.M. 132	磐田郡豊田村 145-1	53	自昭和45年 8月 至 " 9月
45-9	自大阪府茨木市 至和歌山県海南市	B.M.基 21 海南験潮場	茨木市 基 21	119	自昭和45年10月 至昭和46年 3月
45-10	自岡山県岡山市 至大阪府大阪市	B.M.J. 379 B.M.228-1	岡山市 .J. 379	183	自昭和45年 9月 至 " 12月
45-11	自岡山県岡山市 至鳥取県鳥取市	B.M.J. 379 B.M.J.1067	岡山市 J. 379	138	自昭和45年 7月 至 " 8月
45-12	自島根県八束郡宍道町 至鳥取県岩美郡岩美町	B.M.J.2269 田後験潮場	岩美郡岩美町 田後験潮場	176	自昭和45年 7月 至 " 10月
45-13	自鳥取県米子市 至岡山県岡山市	B.M.J.1120 B.M.J. 379	米子市 J.1120	159	自昭和45年 7月 至 " 9月
45-14	自福岡県北九州市 至山口県下関市	B.M.J.1779 B.M.J.1764	北九州市 J.1779	35	自昭和45年 6月 至 " 12月
45-15	自山口県下関市 至島根県浜田市	B.M.J.1764 B.M.J.3028	下関市 J.1764	217	自昭和45年 9月 至 " 10月
45-16	自島根県浜田市 至 " 入束郡宍道町	B.M.J.3028 B.M. 2280	浜田市 J.3028	114	自昭和45年 7月 至 " 8月

45-17	自広島県安佐郡可部町 B.M.J.2 3 5 7 至島根県浜田市 B.M.J.3 0 2 8	安佐郡可部町 J.2357	101	自昭和45年 6月 至 " 8月
45-18	自広島県安佐郡可部町 B.M.J.2 3 5 7 至島根県八束郡矢道町 B.M.J.2 2 6 9	安佐郡可部町 J.2357	146	自昭和45年 4月 至 " 7月
45-19	自山口県下関市 B.M.J.1 7 6 4 至広島県安佐郡可部町 B.M.J.2 3 5 7	下関市 J.1764	205	自昭和45年 9月 至 " 12月
45-20	自広島県広島市 B.M.J.1 6 6 9 至岡山県岡山市 B.M.J. 3 7 9	広島市 J.1669	181	自昭和45年11月 至昭和46年 3月
45-21	自兵庫県神戸市 B.M. 4 4 5 至徳島県鳴門市 B.M. 3 0 2	神戸市 4 4 5	100	自昭和45年 8月 至 " 9月
45-22	自広島県豊田郡本郷町 B.M.J.1 6 3 7 至愛媛県西条市 B.M. 3 4 2 7	豊田郡本郷町 J.1637	82	自昭和45年 6月 至 " 9月
45-23	自愛媛県松山市 B.M. 基 4 3 至香川県善通寺市 B.M.J.3 3 8 5	松山市 基 4 3	129	自昭和45年 9月 至 " 12月
45-24	自香川県善通寺市 B.M.J.3 3 8 5 至徳島県徳島市 B.M. 5 0 7 2	徳島市 5 0 7 2	120	自昭和45年 9月 至 " 11月
45-25	自愛媛県松山市 B.M. 基 4 3 至高知県高知市 B.M.J.5 0 0 4	松山市 基 4 3	131	自昭和45年11月 至昭和46年 2月
45-26	高知県高知市 B.M. 5 0 0 3 B.M. 付 1 3	高知市 5 0 0 3	14	昭和46年 2月
45-27	自高知県高知市 B.M.J.5 0 0 4 至香川県善通寺市 B.M.J.3 3 8 5	高知市 J.5004	118	自昭和46年 1月 至 " 3月
45-28	自長崎県諫早市 B.M.J.3 3 0 3 至福岡県福岡市 B.M.J.1 8 1 6	諫早市 J.3303	223	自昭和45年11月 至昭和46年 3月

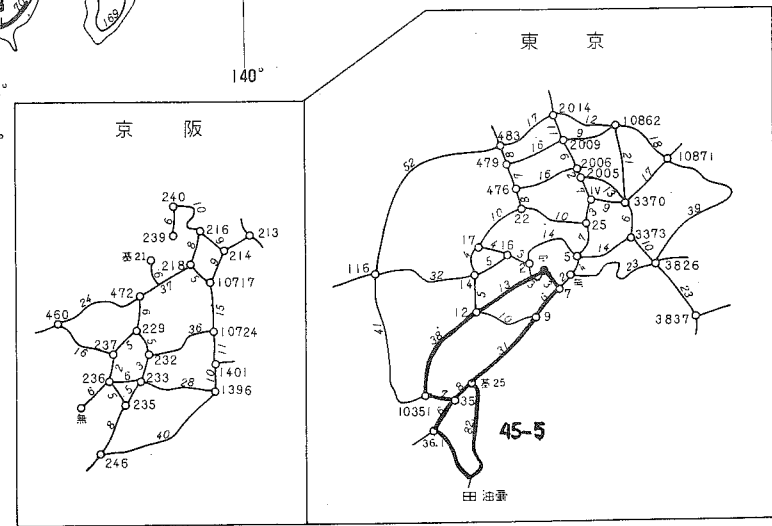
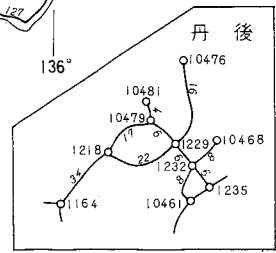
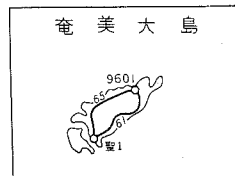
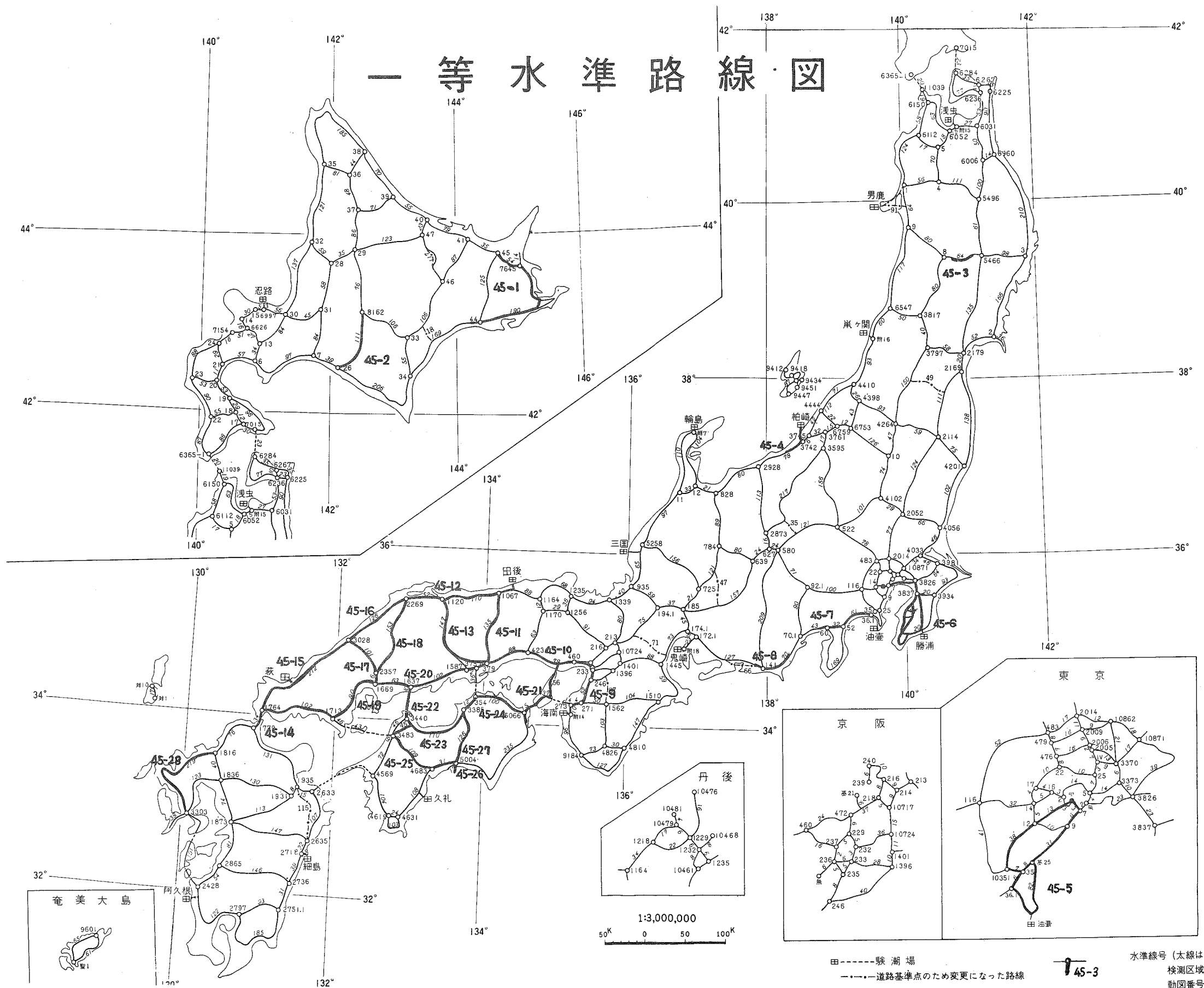
3 水準点変動図の説明

- (1) 変動量はすべて水準点間の新観測比高から、旧観測比高を減じた値を、仮不動点を基準として累加したものである。
- (2) 変動図中、再設、傾斜改埋等のため比較不能のものについては、点線で示し、それらの点が図の両端にあるときは空白とした。
- (3) 昭和39年度から、建設省道路局長と国土地理院長との覚書により、指定区内の一般国道において、道路管理者の設ける地点標の1 Km毎に、一等水準点を併設（新設）することになりこれを道路基準点と仮称している。

この道路基準点を観測した場合、従来の一等水準点が観測路線からおよそ200m以内の場合には取付観測を行ない、それ以上離れた点は原則として、取付観測がなされなかった。

図中、※印は、このような観測されなかった従来の一等水準点を示したものである。

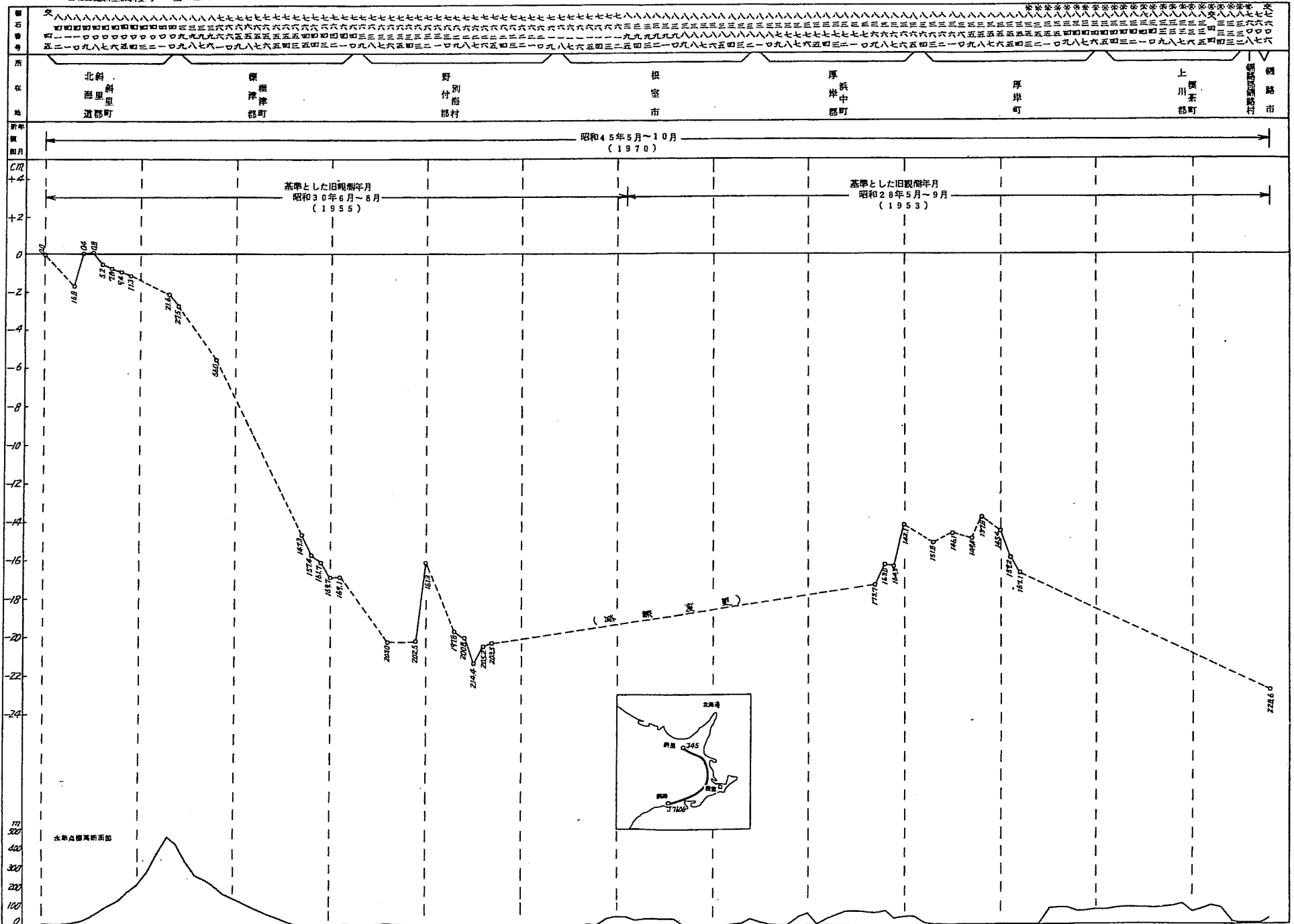
一等水準路線図

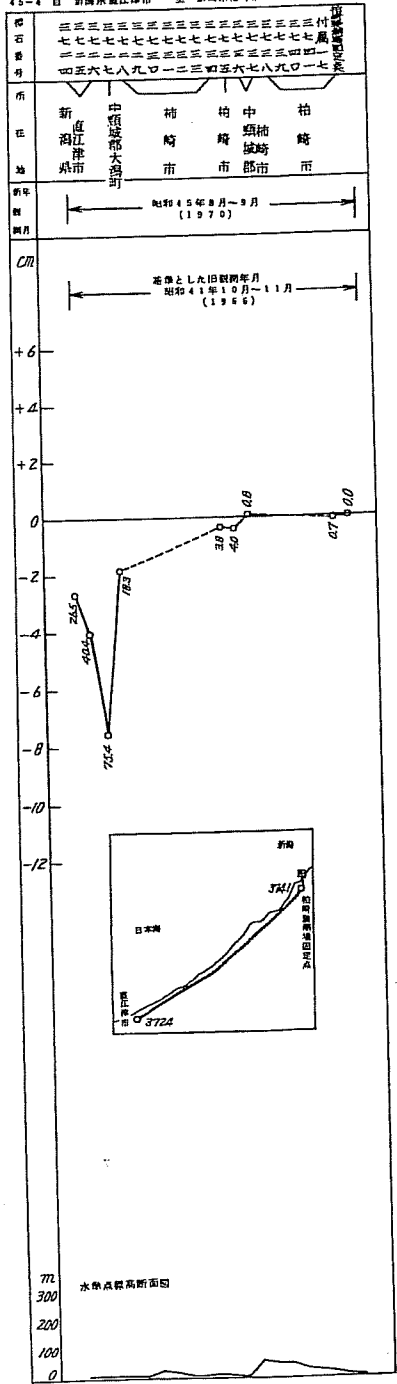


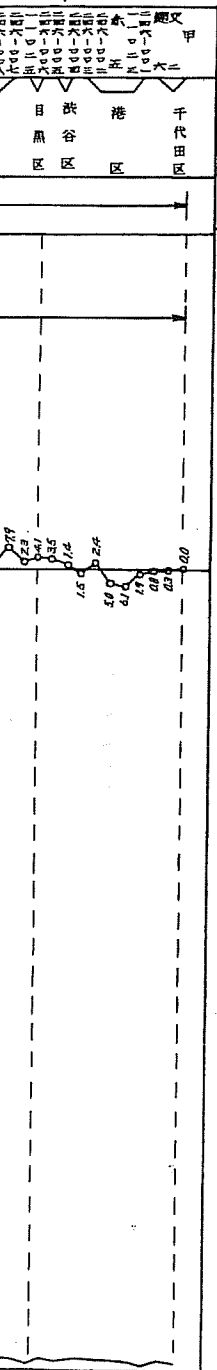
田-----験 潮 場
 - - - - - 道路基準点のため変更になった路線

45-3

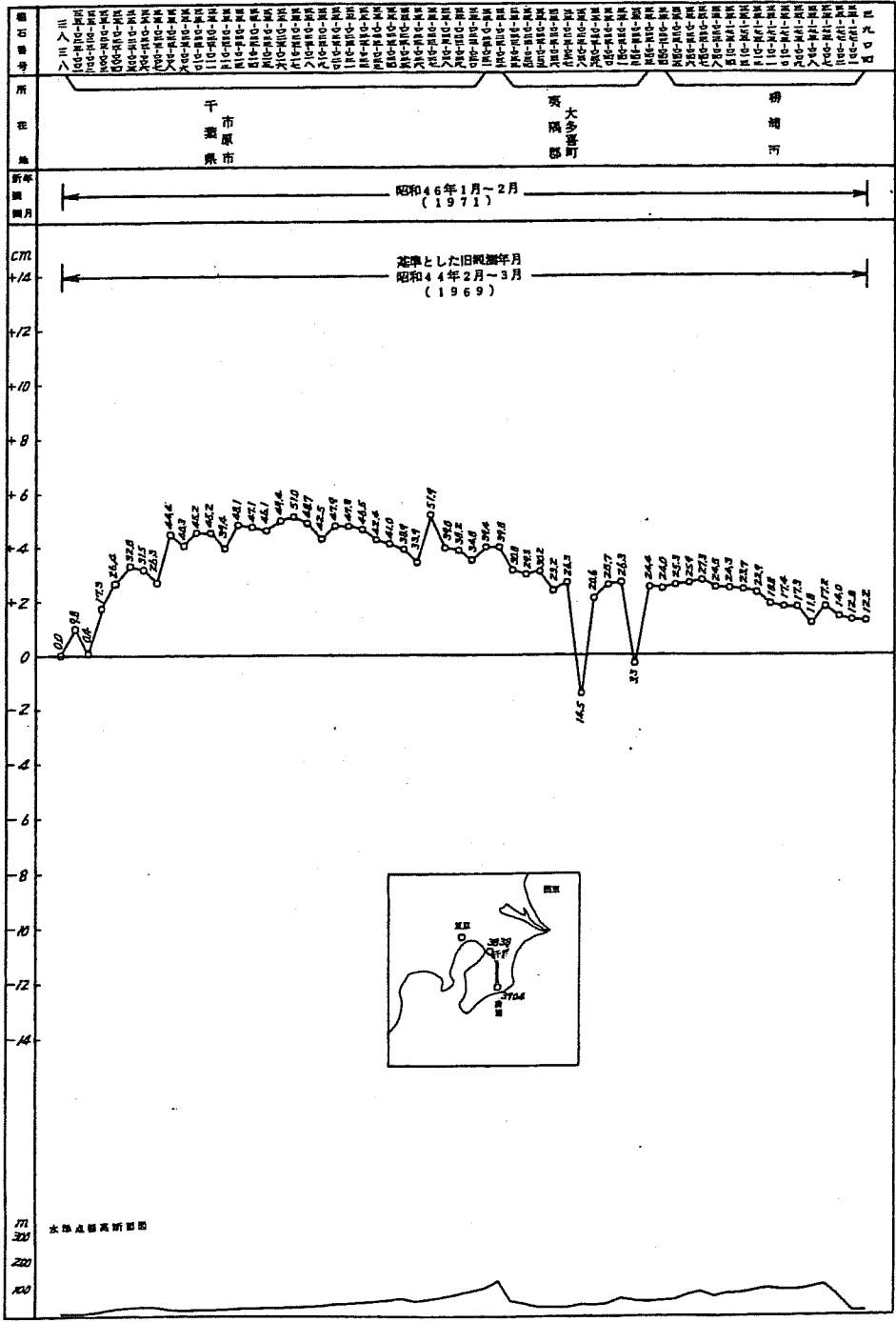
水準線号 (太線は本集録記載
 検測区域、45-3は
 動図番号)



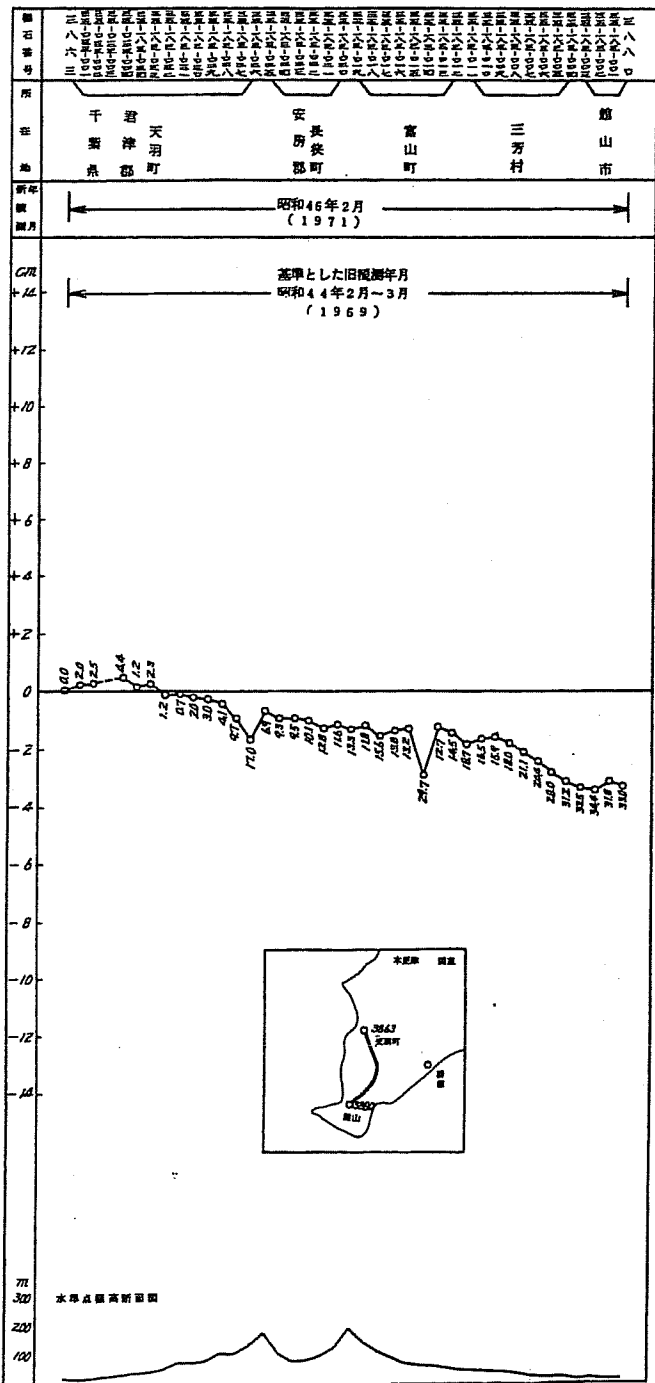




自 千葉県市原市 迄 千葉県勝浦市



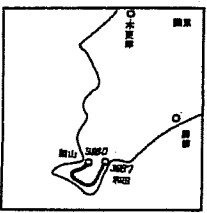
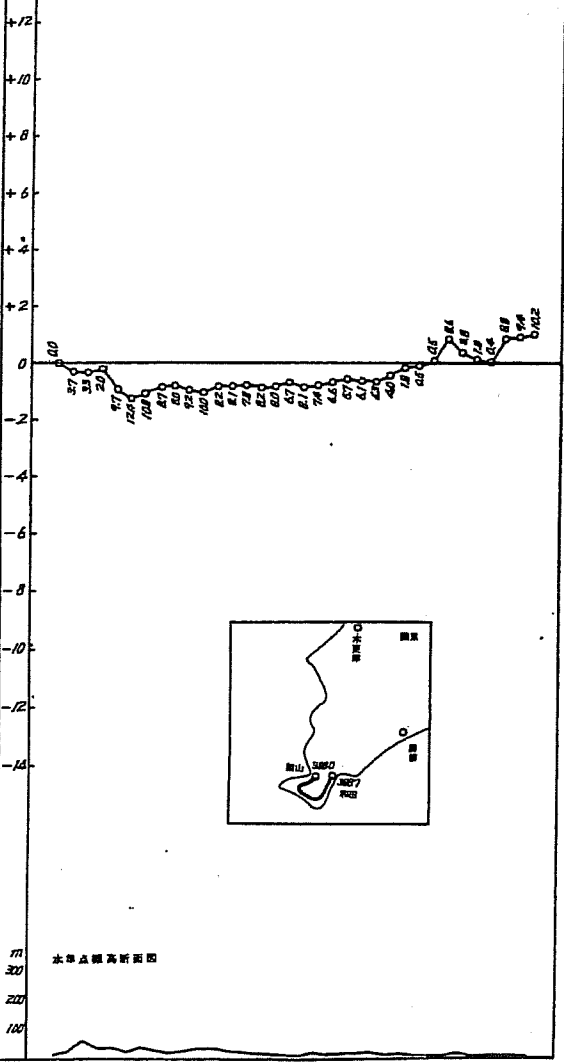
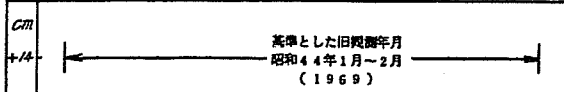
自 千葉県君津郡天浮町 至 千葉県匝船山市



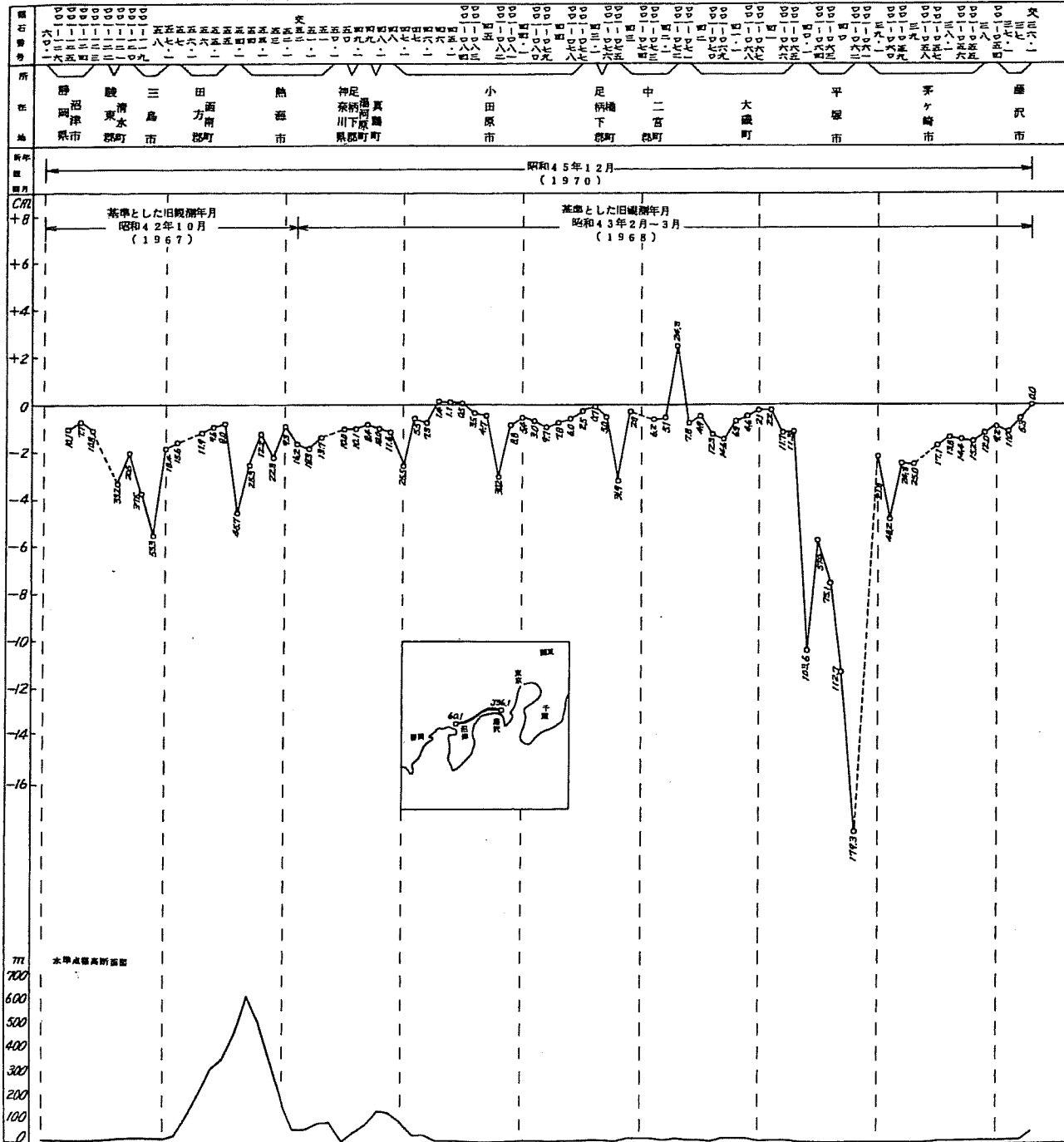
自 千葉県館山市 至 千葉県安房郡和田町

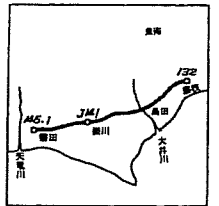
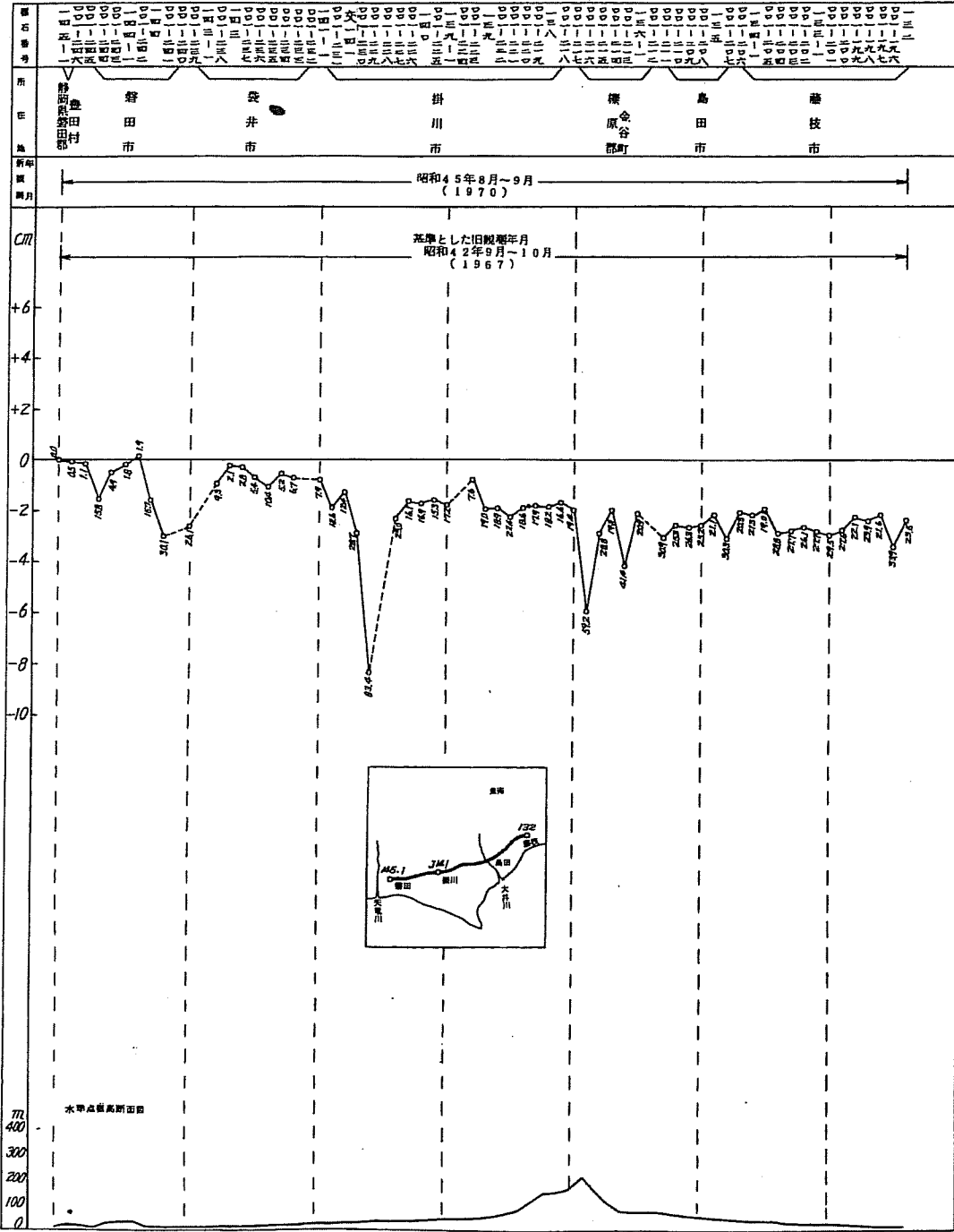
観 測 点 番 号	三 八 〇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇 一〇一 一〇二 一〇三 一〇四 一〇五 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一一〇 一一一 一一二 一一三 一一四 一一五 一一六 一一七 一一八 一一九 一二〇 一二一 一二二 一二三 一二四 一二五 一二六 一二七 一二八 一二九 一三〇 一三一 一三二 一三三 一三四 一三五 一三六 一三七 一三八 一三九 一四〇 一四一 一四二 一四三 一四四 一四五 一四六 一四七 一四八 一四九 一五〇 一五一 一五二 一五三 一五四 一五五 一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇 一六一 一六二 一六三 一六四 一六五 一六六 一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五 一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五 一九六 一九七 一九八 一九九 二〇〇 二〇一 二〇二 二〇三 二〇四 二〇五 二〇六 二〇七 二〇八 二〇九 二一〇 二一一 二一二 二一三 二一四 二一五 二一六 二一七 二一八 二一九 二二〇 二二一 二二二 二二三 二二四 二二五 二二六 二二七 二二八 二二九 二三〇 二三一 二三二 二三三 二三四 二三五 二三六 二三七 二三八 二三九 二四〇 二四一 二四二 二四三 二四四 二四五 二四六 二四七 二四八 二四九 二五〇 二五一 二五二 二五三 二五四 二五五 二五六 二五七 二五八 二五九 二六〇 二六一 二六二 二六三 二六四 二六五 二六六 二六七 二六八 二六九 二七〇 二七一 二七二 二七三 二七四 二七五 二七六 二七七 二七八 二七九 二八〇 二八一 二八二 二八三 二八四 二八五 二八六 二八七 二八八 二八九 二九〇 二九一 二九二 二九三 二九四 二九五 二九六 二九七 二九八 二九九 三〇〇
-----------------------	---

所 在 地	千 葉 山 館 市	安 房 郡 白 浜 町	千 倉 町	丸 山 町	和 田 町
-------------	-----------------------	----------------------------	-------------	-------------	-------------



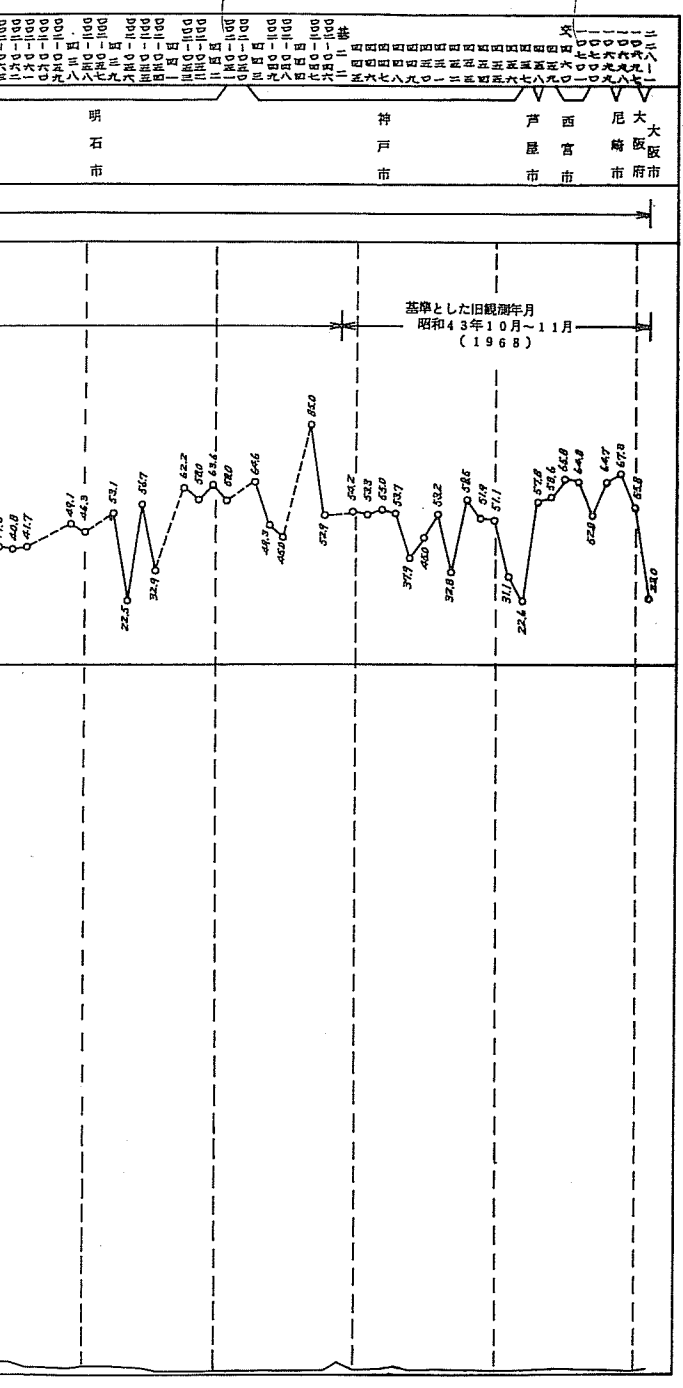
m
300
200
100
水準点標高断面図





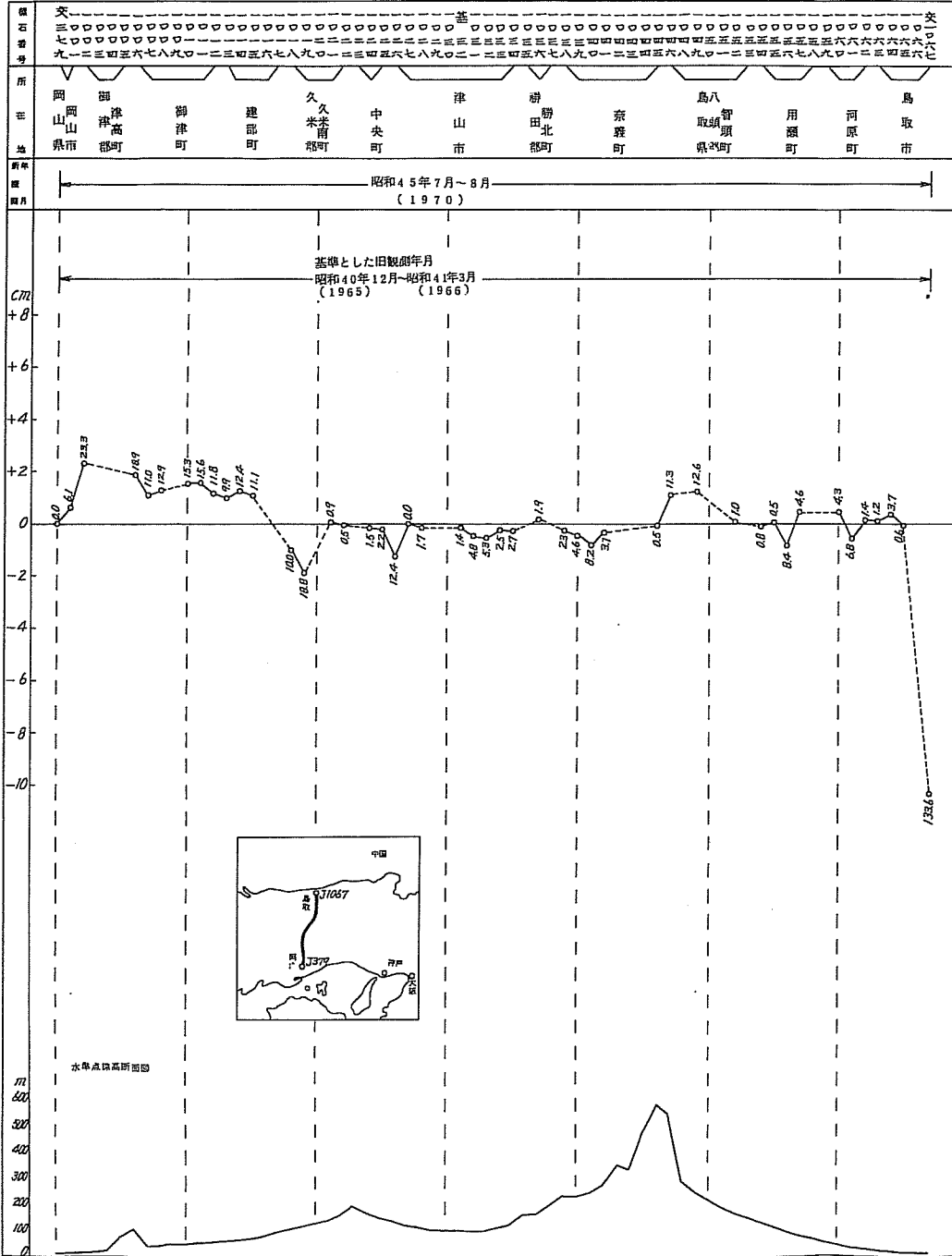
m
400
300
200
100
0

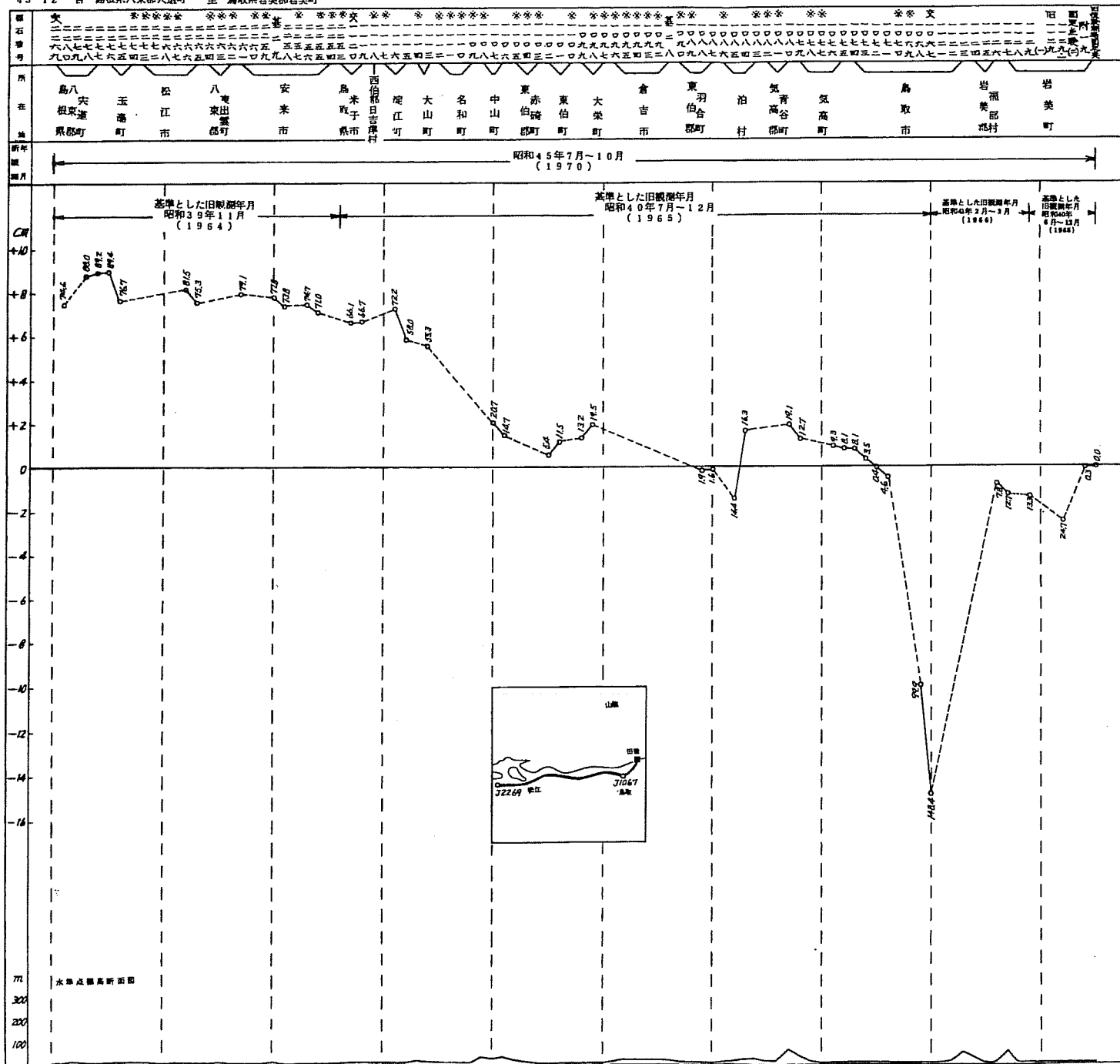
水甲点標高断面図

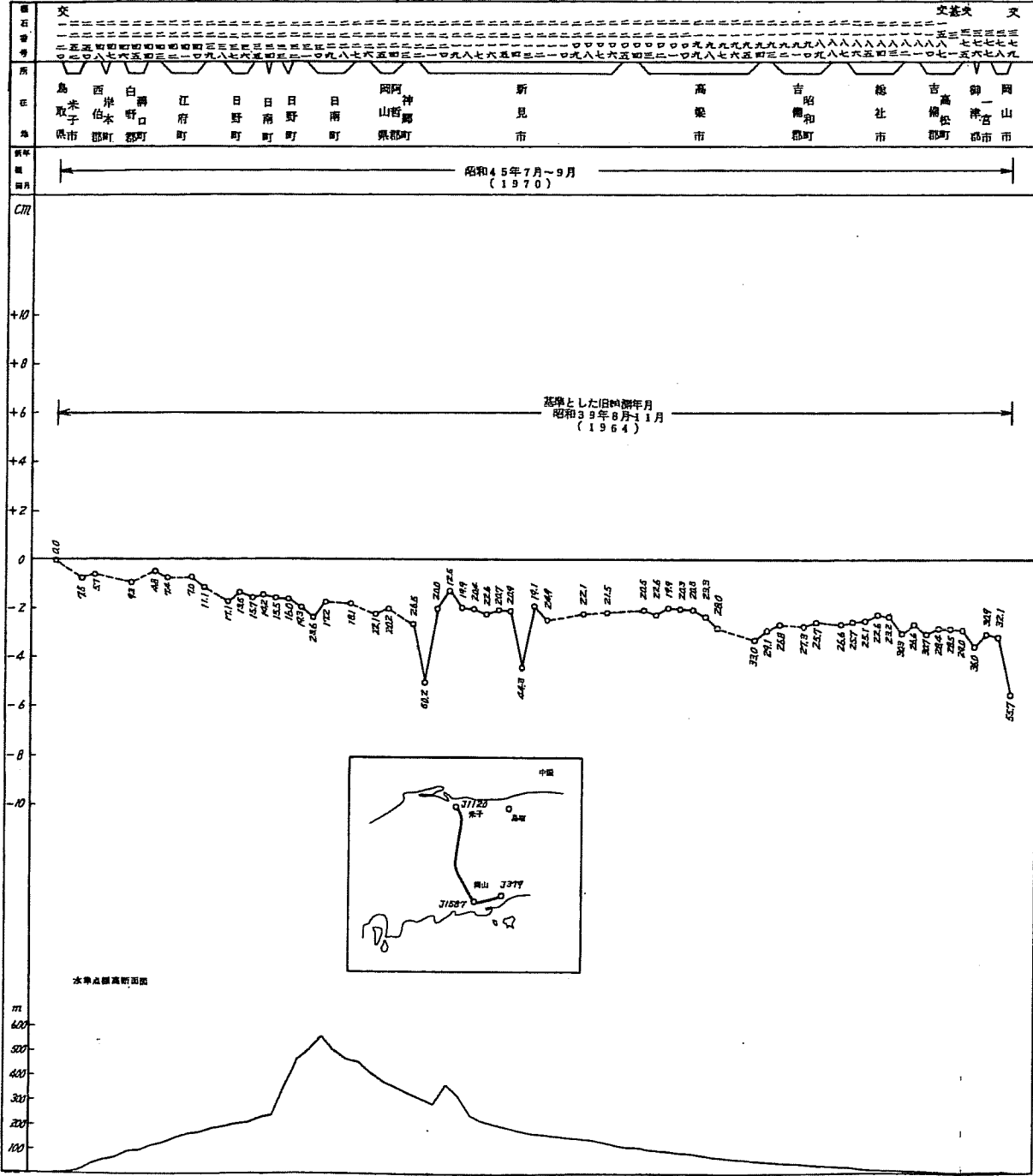


大阪府市
大阪府
大阪府市
大阪府市
大阪府市

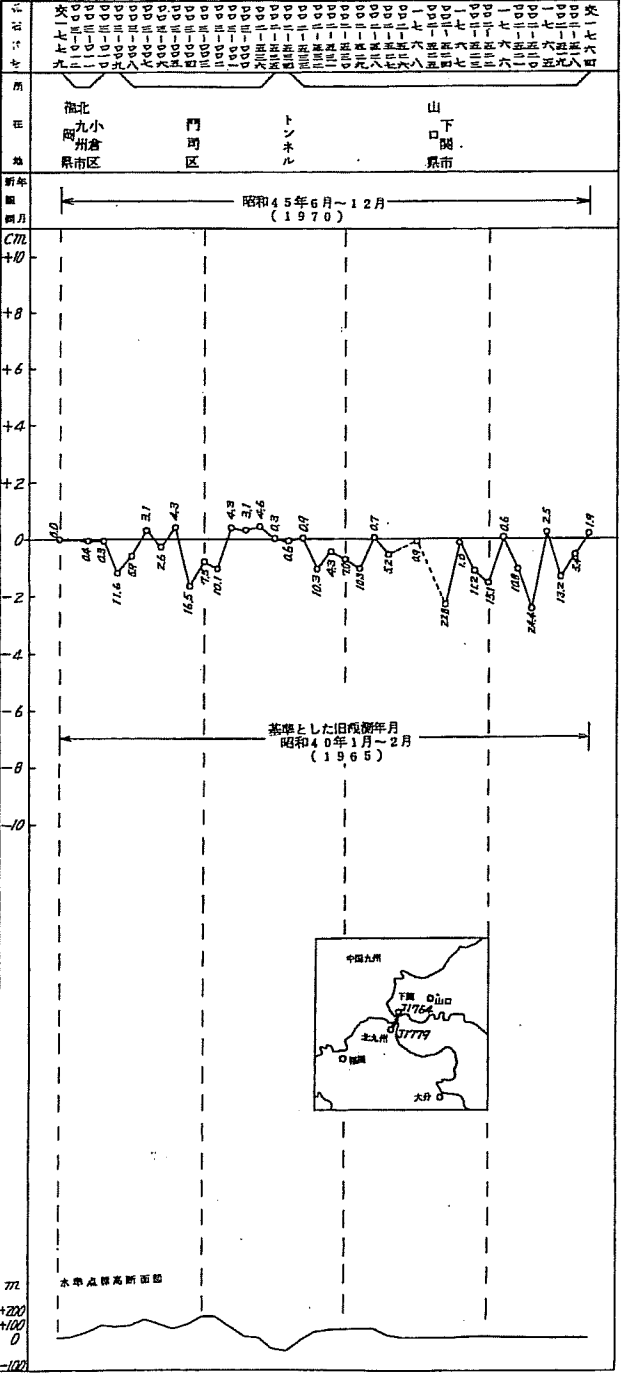
昭和43年10月~11月 (1968)

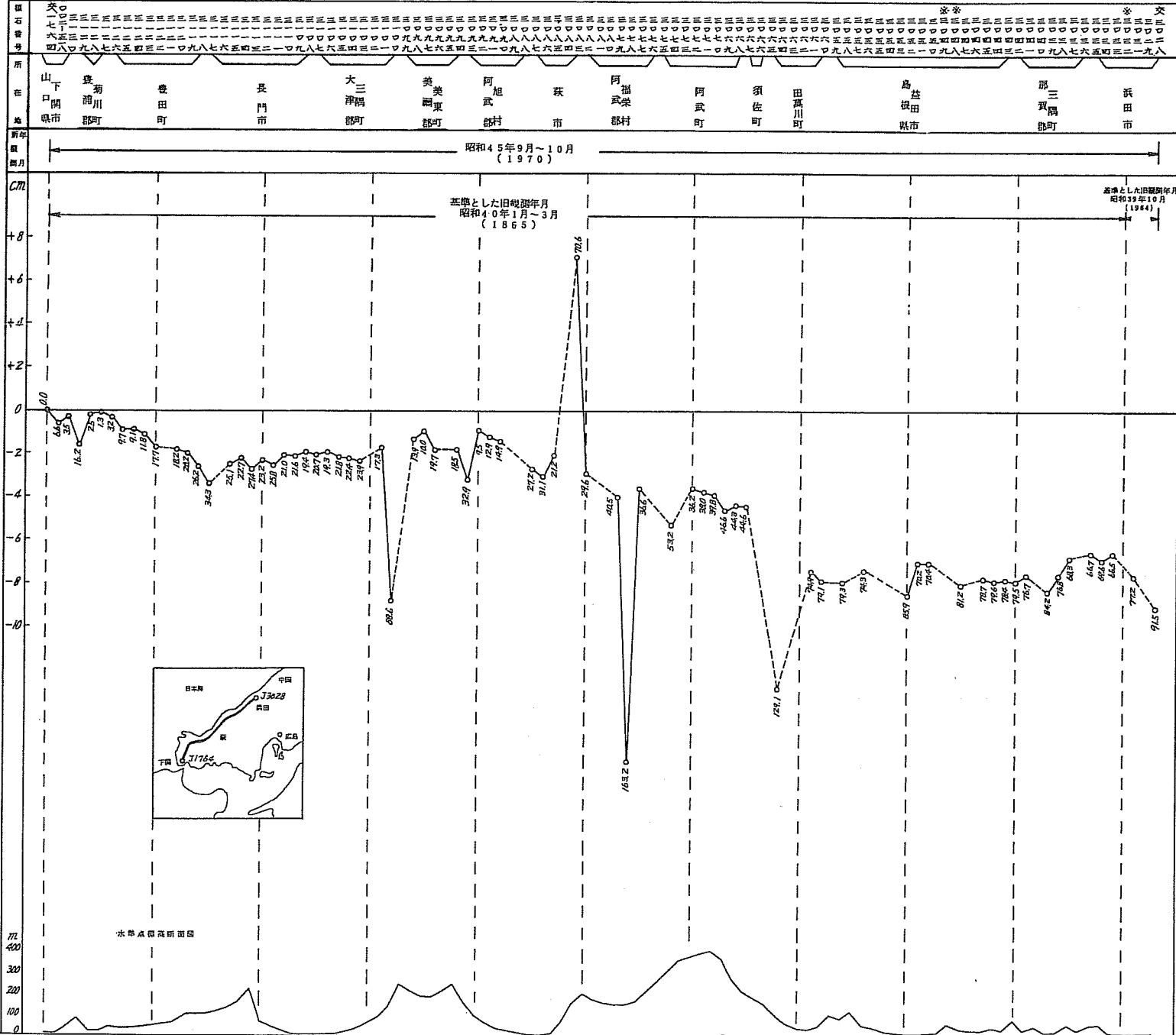




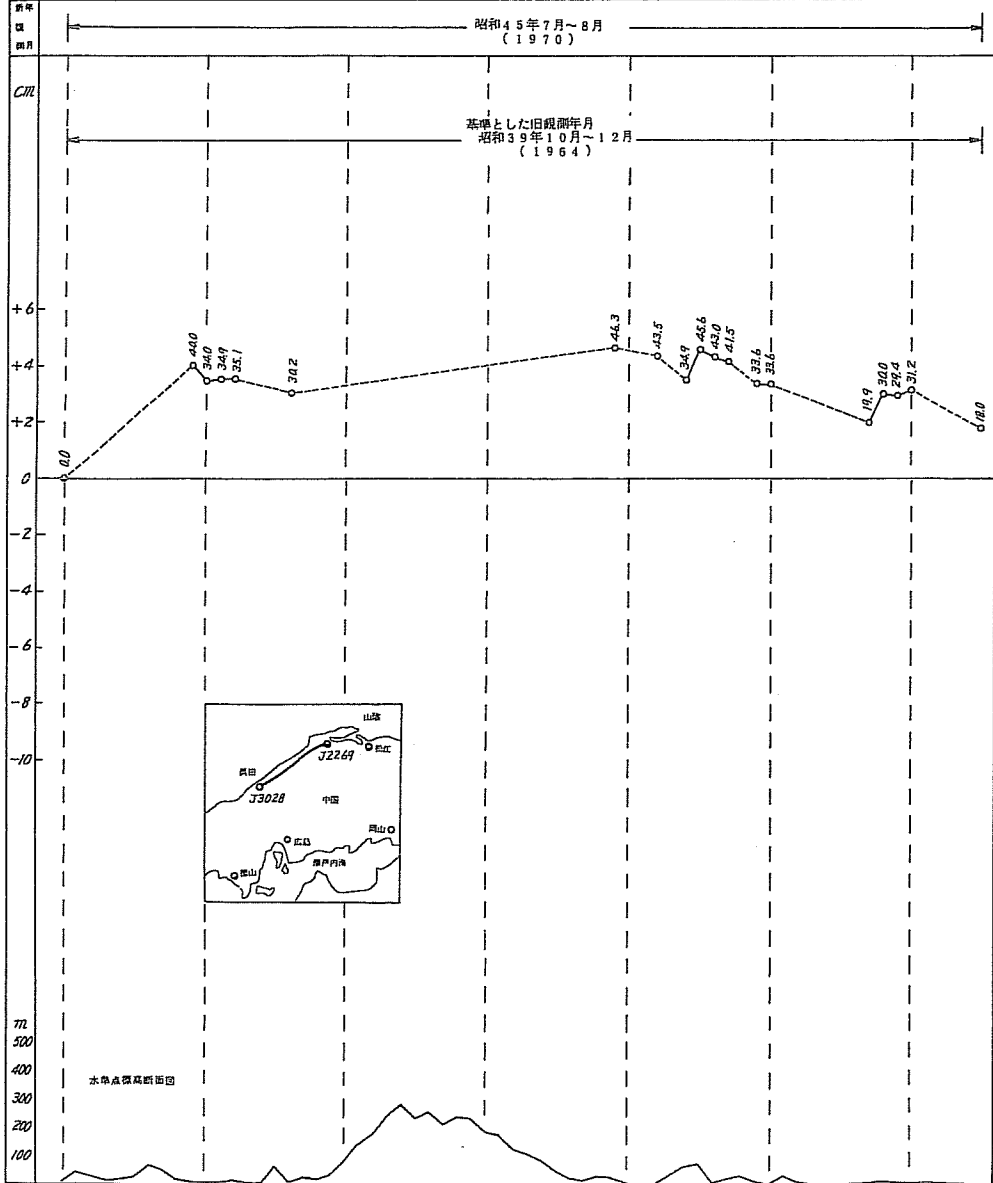


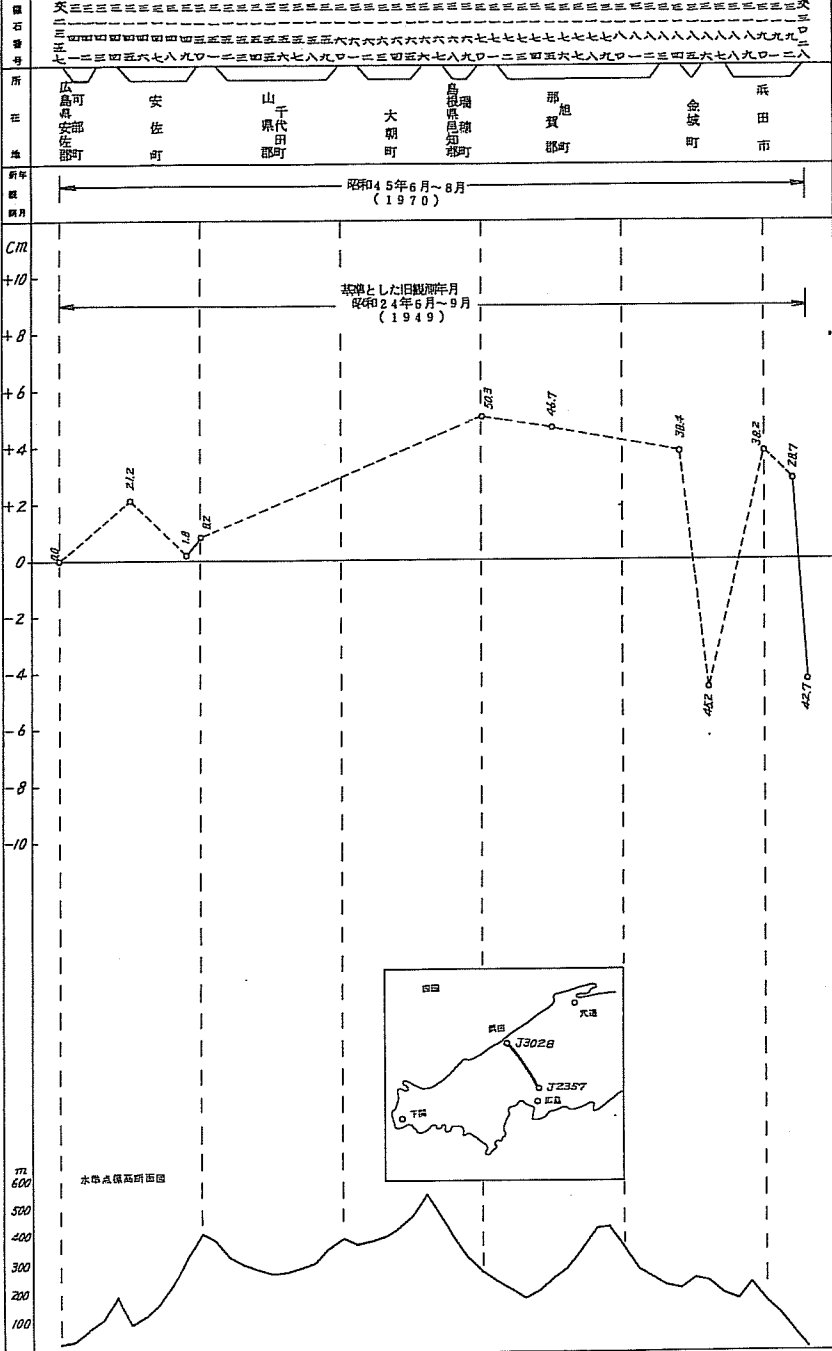
45-14 自 福岡北九州市 至 山口県下関市

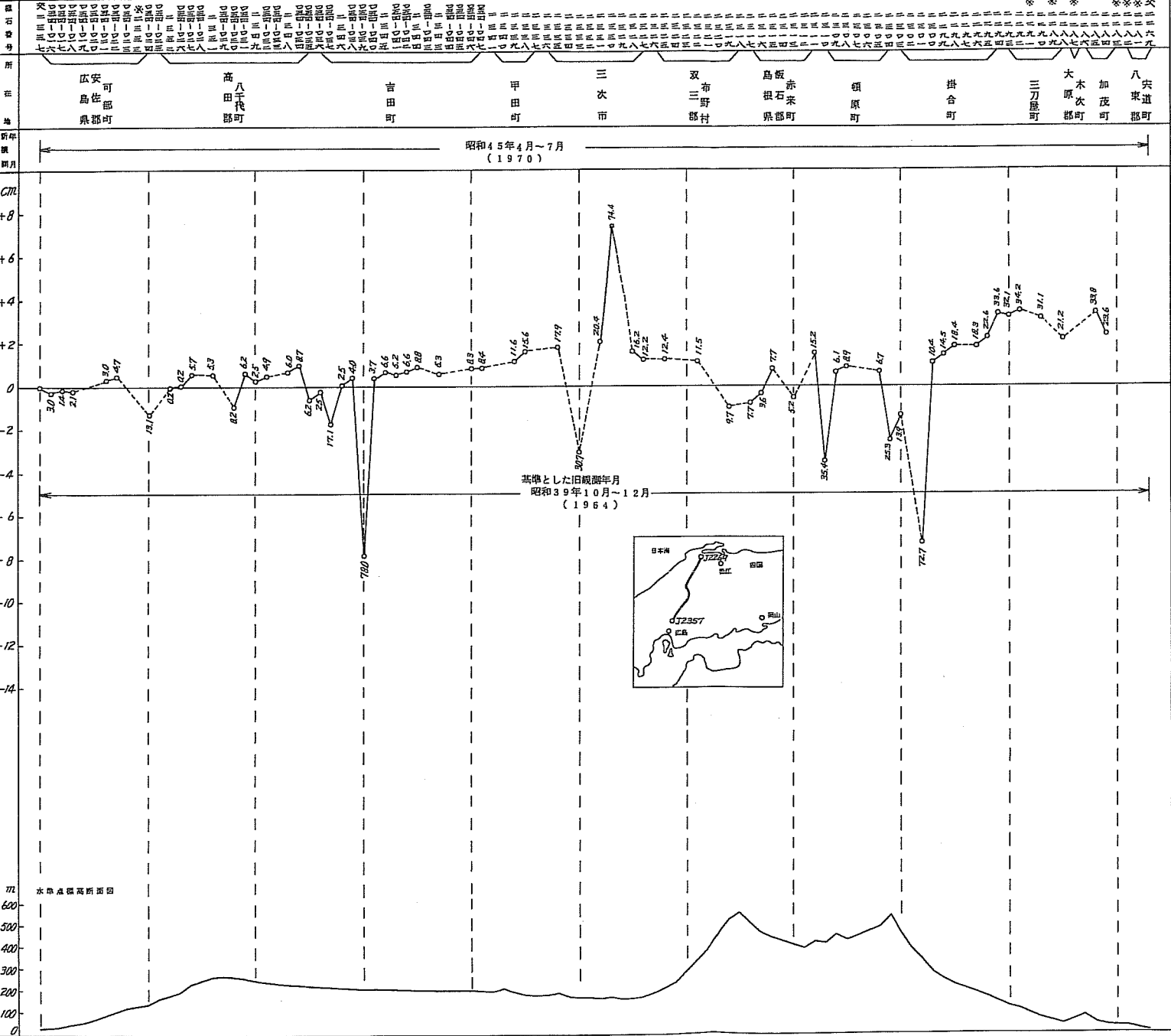




標高	550 540 530 520 510 500 490 480 470 460 450 440 430 420 410 400 390 380 370 360 350 340 330 320 310 300 290 280 270 260 250 240 230 220 210 200 190 180 170 160 150 140 130 120 110 100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0													
距離	0 100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000 1100 1200 1300 1400 1500 1600 1700 1800 1900 2000 2100 2200 2300 2400 2500 2600 2700 2800 2900 3000 3100 3200 3300 3400 3500 3600 3700 3800 3900 4000 4100 4200 4300 4400 4500 4600 4700 4800 4900 5000													
所	島根県浜田市		江津市		宍道郡厚原町		大田市		出雲郡雲部村		宍道郡川部町		八束郡東郷町	

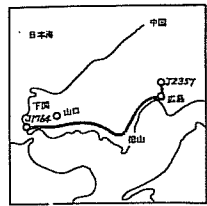
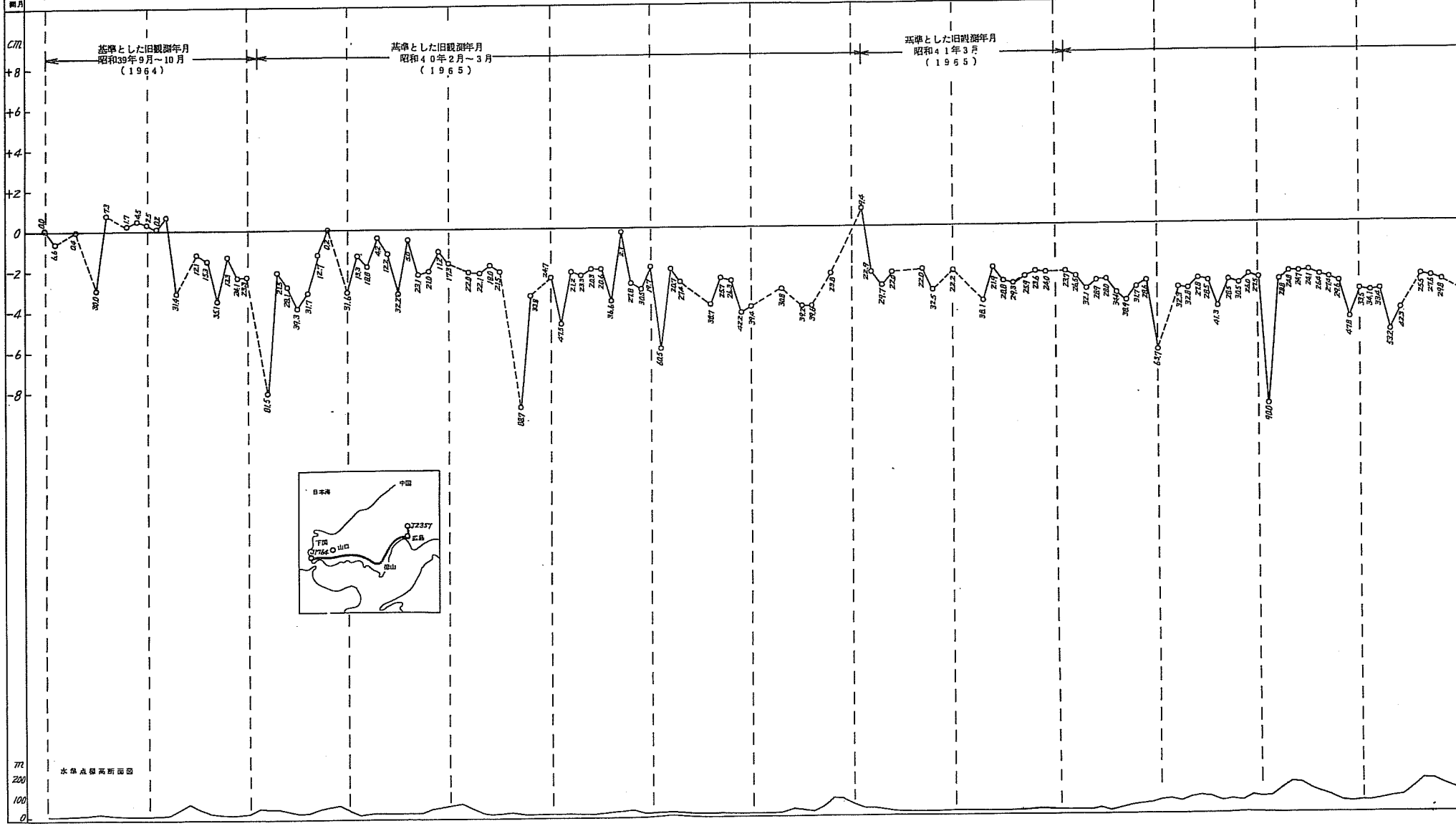


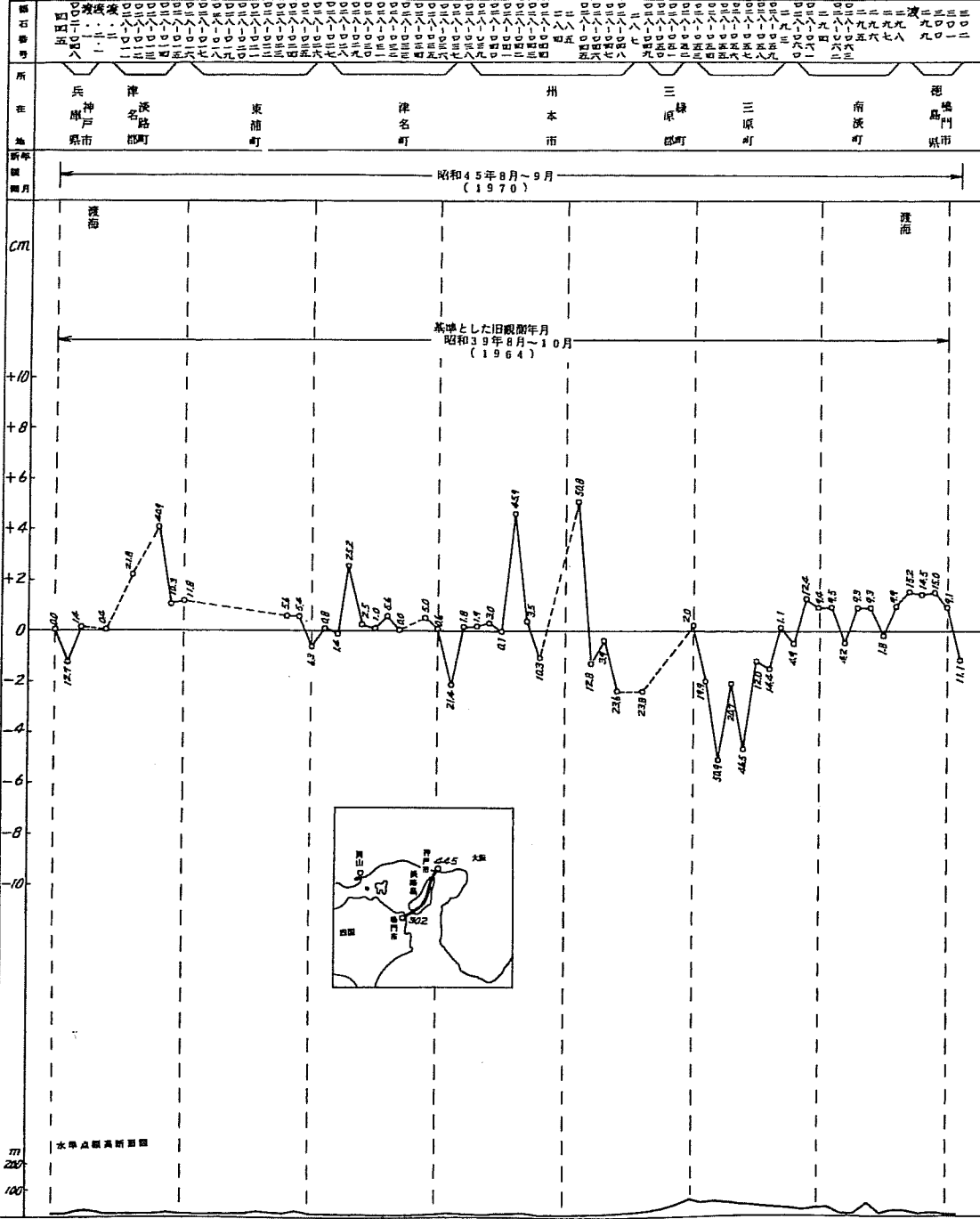




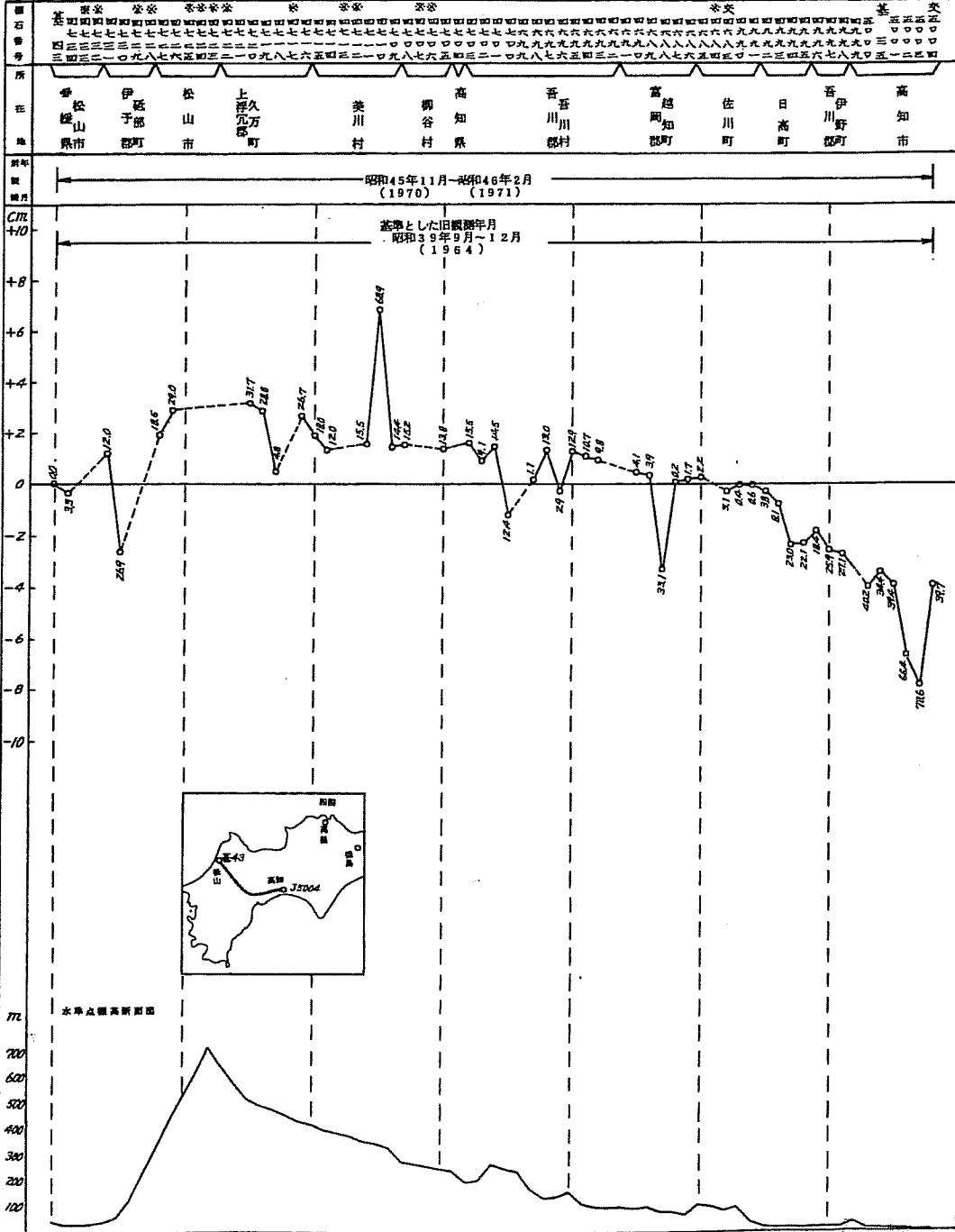
所	山下関市	厚山狭間郡町	備前市	宇部市	山口市	吉小狭郡町	山口市	防府市	徳山市	新南陽市	徳山市	下松市	尾道毛郡町	玖珂郡町	玖珂郡町
所	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県
所	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県	山口県

昭和45年9月~12月
(1970)





45-25 自 愛媛県松山市 至 高知県高知市



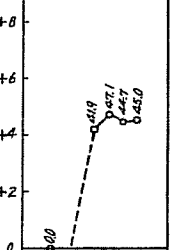
45-26 高知県高知市

五〇〇〇〇〇附
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
三〇—二三四三

所
証
地
高
知
県
市

測
年
測
月
昭和六年二月
(一九三一年)

測
年
測
月
昭和十一年二月
(一九三六年)



+8
+6
+4
+2
0
-2
-4
-6
-8
-10



五〇〇

